

[ 開園時間 ]

期 間	無 料 区 域	有 料 区 域
令和3年4月1日～当面の間	8:30～18:00	9:00～17:30

※入場券販売締切は閉場時間の30分前。  
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月以降も引き続き開園時間・開場時間が変更となります。

[ 休場日 ]

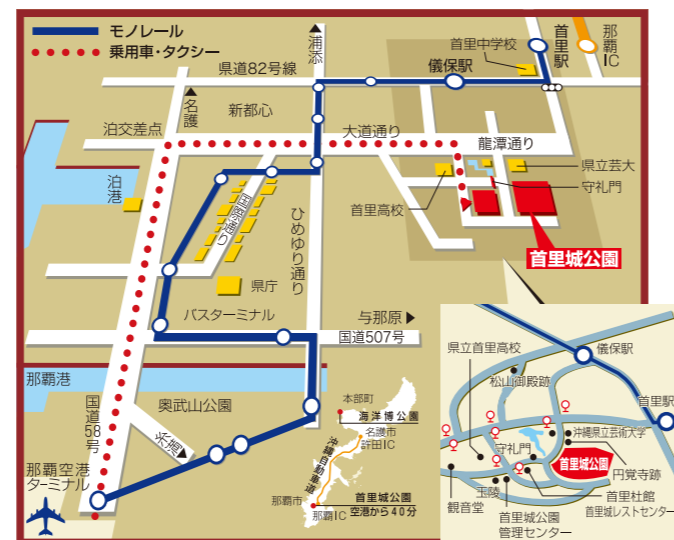
7月の第一水曜日とその翌日

[ 入場料金 ]

	大 人	中人(高校生)	小人(小・中学生)
一般料金	400円	300円	160円
団体料金	320円	240円	120円
年間パスポート	800円	600円	320円

・団体は20名様以上。  
 ・モノレール(ゆいレール)のフリー乗車券(一日券・二日券)をご利用中のお客様は、首里城公園券売所窓口にて乗車券の提示により、団体料金の適用となります。  
 ※フリー乗車券の有効期限内において、一枚につきお一人様一回限りの割引となります。

[ アクセス ]



※駐車場に限りがありますので、バス、タクシー、モノレール等の公共交通機関をご利用ください。

# 御城だより

UGUSHIKUDAYORI

2021  
4

**お得! 首里城公園年間パスポート**

入場料2回分の料分で、1年間何度でも入場できるお得なパスポート。



- 更新特典**
- ① 首里城公園直営売店のオリジナル商品がパスポート提示で10%割引!!!
  - ② 抽選で素敵な賞品を進呈!

新型コロナウイルス感染拡大防止のために  
お客さまへお願い

- マスクの着用
- 体調不良時の来園自粛
- ソーシャルディスタンス
- 横並びでのテーブル利用
- キャッシュトレイの利用
- 手指の消毒

安心してご利用いただくために  
ご協力よろしくお願いたします。

未来へ残そう沖縄の心  
貴重な美術工芸品等の収集・復元・保存に向けて

2019年10月31日、首里城は火災で焼失し、貴重な美術工芸品も400点以上が焼失したと見られています。偉大な先人たちが残してくれた貴重な遺産を再度収集・復元・保存し、首里城で展示できるように、首里城基金の造成にみなさま方の絶大なご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



首里城基金の仕組み

詳しくはこちら



題字：御城だより

御城(ウグシク)とは首里城の敬称。首里では今でも親しみを込め、この呼び方が使われています。

表紙：漆を塗り直された瑞泉門

「瑞泉」とは「立派な、めでたい泉」という意味で、門の手前右側にある湧水「龍樋」にちなんで付けられています。創建は1470年頃。沖縄戦により破壊されましたが、平成4(1992)年に復元されました。

御城だより Vol.11 春号 季刊誌

〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1-2

TEL: 098-886-2020

[ 発行日 ] 2021年4月

[ 編集・発行 ] 国営沖縄記念公園(首里城地区)、県営首里城公園  
指定管理者 一般財団法人 沖縄美ら島財団

URL <http://oki-park.jp/shurijo/>



鮮やかな  
琉球王朝文化が蘇る—  
往時の祭祀儀礼をご紹介します!

八月十五夜に行われた冊封使歓待行事

## 中秋の宴

神女たちの国家繁栄・五穀豊穡祈願

## 百人御物参

正月元旦に行われた琉球王国最大の儀式

## 朝拝御規式

Column

太陽と共に時を刻む、日影台



首里城正殿を背景に演じられる組踊「二童敵討」(首里城公園「中秋の宴」より)



組踊「二童敵討」より護佐丸の遺児の鶴丸と亀千代



組踊「二童敵討」より阿麻和利

## 八月十五夜に行われた冊封使歓待行事

# ちゅうしゅう うたげ 中秋の宴

琉球王国時代、国王の代替わりの際には、中国から皇帝の使者として使節団が派遣されていました。その使節団は冊封使・副使を代表として400～500名に及び、約半年間琉球に滞在していました。その間「冊封七宴」といわれる冊封に関する儀礼や、冊封使たちをもてなす宴が行われていました。中でも、旧暦8月15日頃に行われる「仲秋宴(ちゅうしゅうえん)」や旧暦9月9日頃に行われる「重陽宴(ちょうようえん)」では、首里城北殿に舞台が設置され、冊封使は国王と一緒に舞踊や組踊を鑑賞していました。1719年に来琉した冊封副使・徐葆光(じょほこう)によってまとめられた『中山伝言録』に、舞台が設置された首里城の様子が描かれ、組踊「二童敵討(にどうてきうち)」や「執心鐘入(しゅうしんかねいり)」の演目をみたことが記録されています。

首里城公園では、旧暦の8月15日前後に、首里城正殿前に舞台を設置し「中秋の宴」を開催していました。月明かりの下、華麗な舞踊や演奏、組踊に酔いしれるひとは、かつて琉球王国時代に首里城で繰り広げられていた宴に思いをはせる時間だったのではないのでしょうか。



京の内での巡拝

百人御物参(ももそおものまいり)とは、神女たちが首里城および周辺の聖域を巡拝し、国王の長寿や子孫繁栄・国家安泰・五穀豊穰などを祈る行事でした。首里王府では類似する行事が年間6回あり、また御嶽(うたき)などの聖域を巡拝する行事は首里城に限らず琉球全土で行われていました。

首里城は、琉球の政治行政の拠点であるとともに固有祭祀の拠点として別格の存在でした。首里城を中心に神女組織が再編され、その頂点に立つのが聞得大君(きこえおおきみ)でした。

百人御物参には、聞得大君のほか、三平等大(みふいらお)あむしられと呼ばれる上級神女を中心とする神女、王府の役人が参列しました。一行は、城外にある聞得大君御殿(きこえおおきみうどうん)や首里殿内(しゅりどうんち)といった王府の祭祀施設へ巡拝しました。その後、首里城の東側にある継世門(けいせいもん)から登城し、正殿にある火の神や城内の御嶽を巡り、再び城外の重要な御嶽を巡拝して終わります。

以前実施された首里城公園の「百人御物参」では、御庭(うな一)における王府の役人による正殿への拝礼から神女を中心に巡拝への出発、首里森御嶽(すいむいうたき)の拝礼と京の内における巡拝を再現しました。祭祀を司る神女たちは正殿前の儀礼空間である御庭で王府の役人と合流した後、下之御庭(しちやぬうな一)にある首里森御嶽で拝礼を行います。再現儀礼の「百人御物参」は、首里城の祭祀儀礼の厳かな雰囲気味わうことができるイベントとして好評を博しています。

## 神女たちの国家繁栄・五穀豊穰祈願

# ももそおものまいり 百人御物参



首里森御嶽での拝礼

# 太陽と共に時を刻む、日影台

にちえいだい

私たちは現在、壁掛時計や携帯電話、パソコンなどで瞬時に時間を知ることができます。琉球王国時代、人々はどうのように時間を知っていたのでしょうか。

首里城公園の北側、広福門(こうふくもん)前に「日影台(にちえいだい)」という円盤状のものが設置されています。これは「日時計」で、太陽の動きを利用して時間を測るものです。十二支で区切られた円盤に棒がついており、この影から時刻を読み取ります。太陽の通る位置が季節によって異なるため、円盤を支える台の角度を調整して、正確に時刻が測れるようにしています。

1739年、三司官であった蔡温(さいおん)は国王か



ら命令を受けて、西原町の帽子峰で1740年の春分から1741年の冬至にかけて毎日測定を行い、正確な日影台をつくりました。しかし日影台だけでは天候によって計測できないこともあるため、近くにある漏刻門(ろうこくもん)に設置された水時計と共に、この場所での時刻を測り、旗や太鼓、鐘を使って首里城郭内外に時間を知らせていました。

首里城公園では、年に4回(春分、夏至、秋分、冬至)間近でご覧いただくことができる解説会を行っています。YouTubeでも紹介しているので、ぜひご覧ください。



正殿前で新年を祝う様子



新年のはじめに祈りを捧げる国王



大通り

## ちょうはいおきしき 朝拝御規式

首里城公園では毎年1月1日から3日にかけて、琉球王国時代の正月儀式を再現したイベント「朝拝御規式(ちょうはいおきしき)」を開催していました。御座楽の演奏が流れ、首里城正殿の中央の扉が開き、華やかな衣裳を身にまとった国王と王妃が高官たちが着座する御庭へ登場し、観客と共に新春の喜びを祝っていました。

## 正月元旦に行われた琉球王国最大の儀式

現代でも新しく年を迎えるときには、普段の生活とは少し違うものを食べたり、新年の決意や願いを形や行動で表したりします。琉球王国時代、首里城のお正月は1年の中でも盛大に儀式が執り行われる日であり、特別なものでした。首里城正殿二階の外には、鶴や亀などのおめでたい文様が描かれた画簾(がれん)を掛け、楽器を展示し、色とりどりの旗で華やかに城内を飾ります。厳かな御座楽(うざがく)の演奏が流れる中、御庭(うなー)では祈りを捧げ、首里城正殿一階の御差床(うさすか)では国王と臣下が共にお酒を酌み交わすなどの関連儀式がたくさんあり、年初めは大忙しだったのです。

首里城公園  
SHURIJO CASTLE PARK



お家でも首里城公園を楽しんでいただけるようYouTubeチャンネルを開設しました！  
首里城公園内施設・各種イベントの解説や生配信、復興へのあゆみなどをわかりやすい動画にして、アップしています。

ぜひ、高評価、チャンネル登録をお願いします。

